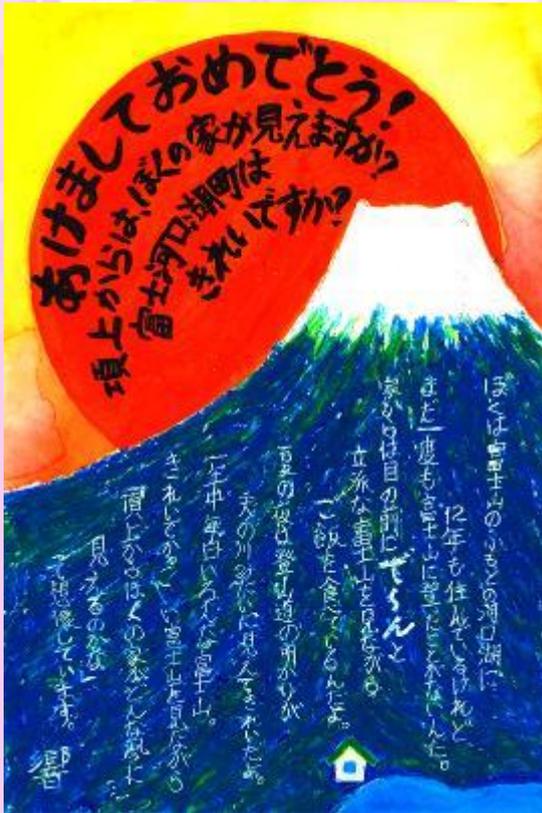


# 富士山憲章

【ふじさんけんしょう ニュースレター】

# NewsLetter

No.119 2016.3



最優秀賞  
森 響さん (山梨県)



審査員特別賞  
松本 祐果さん (愛知県)



審査員特別賞  
服部 希海さん (愛知県)

富士山憲章ニュース ...P1

野生動物に会いたい!!  
～生き物の棲みか編～ ...P3

Enjoy!! National Parks  
～小笠原諸島～ ...P5

富士山レンジャー活動報告 ...P9

イベント情報 ...P10

お知らせ

上記の作品は、「第13回富士さんへ謹賀新年」(富士山あて年賀状)応募作品911点の中から選ばれた、上位3作品です。たくさんのご応募、ありがとうございました。

### 【最優秀賞講評】

- 作者は毎日富士を見ながら生活している。そのことを大切にしている様子が文章から感じられ、心が暖かくなります。構図も大胆で、色彩は単純明快。冬富士の下半分のブルーの地に、スクラッチにより富士山への思いを綴った文章が、とても美しいハーモニーを感じさせます。
- クレヨンでゴッチリと塗り込まれた画面に白く抜かれた緻密な文字、そしておおらかな太陽と、太陽光を映した空と山肌の色とのコントラストが美しいです。
- 湖の畔の自宅から毎日見上げる富士山。構図いっぱいの大きな富士山と、小さな家の対比をベースに、日々の暮らしの中で親しみ深く富士山の存在を感じる様子が伝わってきます。

2月23日は富士山の日

# 富士山憲章ニュース

富士山ボランティアセンターでは、富士山の環境保全に向けた関心や意識を高め、美しい富士山を将来にわたって守り引き継いでいくことを決意した「富士山憲章」の理念を広めるため、毎年富士山にあてた年賀状を募集しています。13回目となる今回は、42都道府県から、911点の力作をお寄せいただきました。

厳正な審査の結果、ご応募いただいた作品から最優秀賞1点、審査員特別賞2点、優秀賞15点を含めた入選200点を決定いたしました。ここでは、優秀賞15点を紹介させていただきます。たくさんのご応募、誠にありがとうございました。



萩原 菜月 (山梨県)



田中 伶 (山梨県)



森 悠仁 (大阪府)



高部 優斗 (山梨県)



末木 琉偉 (山梨県)



ふるや そうすけ (山梨県)



井上 雄貴 (山梨県)



末木 優衣 (山梨県)



渡辺 夢翔 (山梨県)



中村 順平 (東京都)



瀬尾 千富 (広島県)



村上 千恵 (東京都)



内山 晴美 (長野県)



渡辺 和徳 (広島県)



市村 七海 (山梨県)

今回審査を担当した、審査員長の櫻井孝美氏(安井賞受賞画家)、審査員の中島博美氏(山梨県立美術館主査・教育主事)、五十嵐哲也氏(山梨県富士工業技術センター主任研究員)より、講評の言葉をいただいています。

【応募作品総評】

- 全体的に甲乙つけがたく、入賞に匹敵する作品が多数ありました。
- 様々な創作の方法を工夫し、多様な表現が見られ、審査には苦勞しました。どの作品からも富士山への愛、家族への愛が感じられました。
- 無数のバリエーションがあり、たくさんの人の日々の生活の風景が、富士山への年賀状に映し出されているように感じました。富士山がもたらしたら喜ぶだろうな、と心から思える作品が今回もたくさん集まったと思います。

【審査員特別賞(松本 祐果さん)講評】

- 色彩を抑えたハーフトーンにより、見ていてホッとすると、心休まる絵に感じました。
- 富士山と他の山々の色あいや、空のグラデーションがとても美しいです。原色の作品が多い中で、渋いトーンが際だっていました。
- 夕焼けの中に暗く沈んで見える富士山が、風景の魅力を高めてくれているという観点が独創的だと思います。

【審査員特別賞(服部 希海さん)講評】

- ブルーの空に、遙か遠く、しかも大きく富士が浮かび上がっていて、絵画性の高い作品になっています。
- 日本画にも通じるような、視点(消失点)の移動が感じられます。手前の桜により画面に奥行きが感じられ、美しい富士山です。
- はるか上空から見下ろしているような、あるいは下から仰ぎ見ているような、異次元を覗き込んでいるかの如き不思議な印象を与えてくれる作品です。

なお、入賞作品については、富士山ボランティアセンターのホームページでも閲覧いただけます。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/index.html> のURLを参照してください。

また、入選作品200点を富士北麓地域を中心に巡回展示を行っております。展示日程に関しては、10ページをご覧ください。

# 野生動物に会いたい!!

## ～生き物の棲みか編～



今回が2回目となる、不定期連載の野生動物に会いたい!! 前回(No.16)は足跡についてお話をしましたが、今回お話しするテーマは「生き物の棲みか」です。野生動物にも人と同じように家(棲みか)を持つものが多く知られています。しかし、人の住む家と野生動物の棲みかには異なる点がいくつかあります。今回はそういった違いと、野生動物はどの様な棲みかを使って(作って)いるのかというところを紹介していこうと思います。

基本的に人の考える家とは、帰るべき場所であり、他人が簡単に入ることのできないパーソナルスペースだと思います。野生動物の棲む家も根本的には変わらないのですが、大きく違うのが、その家がひとつに限られていないということ、また必ずしもその棲みかを必要としないということです。常に危険に晒されている野生動物は、ひとつの場所に居続けることを好みません。そして、自分を狙う天敵に居場所がバレてしまうことがあれば、その家に帰ってくることは二度とないでしょう。また、ある時期にだけ使用して、それ以降使うことのない季節限定の家(使い捨て別荘みたいな?)や、子育てをするためだけの家などとても様々です。もちろん人の中にも野生動物の様な家の使い方をしている人がいないとは言いませんが(笑)。

そこで今回は、比較的に見つけやすい巣に焦点をあて、どの様な場所にあるのか、どの様な形なのか、持ち主を同定する際の確認点、観察する際の注意点を簡単に紹介していきたいと思えます。(全5種類)



・木に開けられた穴を巣にしている野生動物を同定する時は、穴の形やサイズを確認しましょう。

- ・巣の持ち主：  
コゲラ→ニホンリス  
(コゲラの古巣を利用)
- ・巣材：枯れ木
- ・巣の特徴：木に穴を開ける
- ・穴の大きさ：約4cm～6cm



・穴の入口がキレイに拡張されていることや、コゲラが使う穴よりひと回り大きくなっていることから、現在はニホンリスが使用しているものと思われます。

・ヒガラやコガラ、モモンガといった可能性も考えられるので、似た穴を見つけた場合は周囲の様子や木の根元を確認してみましょう。



- ・巣の持ち主：ヒヨドリ又はホオジロ
- ・巣材：枯草、ツル、木の根等
- ・巣の特徴：浅いお椀の型  
木の股などに巣を作成
- ・高さ：地上から約1m～1m50cm
- ・巣の大きさ：15cm×15cm

④：今回紹介する巣は筆者の見立てによる一例です。個体によって形や巣材も異なることがありますのでご了承ください。

・横から見た巣：いろいろな角度から写真を撮っておくとあとで持ち主を調べやすいです

・巣に使う材料は同じ仲間でも様々です。彩りを気にするものもいるので、色々な巣を自分の目で見て経験値を増やすと巣の同定もしやすくなります。

・巣が少し古かったのと、2種類とも近くで生息が確認できたため、種類を断定できなかった。



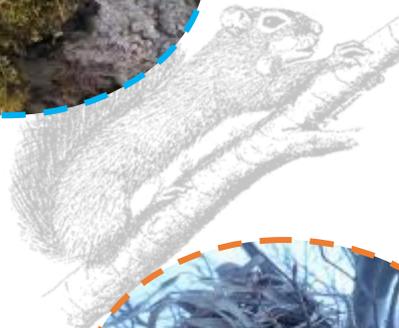


- ・巣の持ち主：ミソサザイ
- ・巣材：コケ等
- ・巣の特徴：岩場の棚や木の根元に袋状の巣を作成  
入り口はとても狭い

・ミソサザイはとても気の強い鳥です。営巣期に巣に近づくと、一定の距離を保ちながら、警戒を意味するさえずりを延々と続けます。さえずりが長いなど感じたら周りを見渡してみるのもいいでしょう。



・野生動物のなかには、一度気に入ると同じ場所に何度も巣を作るものもあります。また同じ場所に巣を作ってもらえるように、なるべくストレスを与えずに観察することを心がけましょう。



・綺麗なボール型の巣。ウグイスのものと似ているが、巣の中の様子や、巣材の使い方からカヤネズミのものと思われます。



- ・巣の持ち主：カヤネズミ
- ・巣材：カヤ等
- ・巣の特徴：横向き、ボール型の巣  
カヤとカヤの間、低い木の股などに巣を作成
- ・高さ：地上から約30cm～50cm

・営巣中に近づくと、育児を放棄してしまうことが多いです。使っている可能性があるときは近づかないようにしましょう。

・カヤ場、水場が近くにある場所でよくみられ、見つけやすい種類の巣です。

### 【観察する際の注意点】

○野生動物の巣は前述したように、子育てに使われている場合があります。むやみに近づきすぎると子育てを放棄してしまう可能性があるため、巣を見つけたからといって近づきすぎず、まずは遠目で観察しましょう。また、生き物がいない放棄された巣には、寄生虫やダニがいることがあるので手に取る際は十分に気を付けましょう。

○冬場は、子育てを終え、放棄された巣が多くなります。また、木々の葉が落ちることから観察がし易いのでお勧めです。また大雨や台風が過ぎ去った後は、山道に巣が転がっている事があるので探索にでてみるのもお勧めです。

○巣の持ち主を巣だけで同定することはとても難しいです。周囲の様子をしっかりと確認し、野生動物の痕跡がないか確認しておくといいいでしょう。



- ・巣の持ち主：ニホンリス
- ・巣材：アカマツの樹皮等
- ・巣の特徴：フットボール型の巣  
木の股などに巣を作成
- ・巣の多さ：約40cm×40cm



・樹上にできる皿型のニホンリスの巣。ニホンリスの個体数が多い森では、多様な巣の形が見られるかも。

・本来は杉の樹皮を使うことが多いが、今回観察を行った森ではアカマツが多いので、アカマツの樹皮を主に使った巣を作ったと思われます。

# Enjoy!! National Parks

2nd

## ～Ogasawara Islands～

### 富

士山と同様に国立公園であり、世界遺産でもある小笠原諸島。東京から南南東へ約1000kmの太平洋の真ん中に海底火山からできた約30の島々から形成されており、その特異稀な生態系は「東洋のガラパゴス」と称されています。

今回の Enjoy!! National Parks(国立公園)を楽しもう!!(第二弾は、富士山と比較しながら、日本が世界に誇る小笠原諸島の自然や生態系と、その保護活動を紹介します。

東京から約100km離れた富士山。富士山を囲む山梨県と静岡県の5市4町2村では平成20年11月からいわゆる「ご当地ナンバー」として「富士山」が交付されることとなり、富士山ナンバーの車を周辺ではたくさん見るようになりました。

東京から約1000km離れた小笠原諸島で走っている自動車は、みんな「品川」ナンバーです。不思議な感じがしますが、実は小笠原諸島は東京都(小

笠原村)なのです! 飛行場を持たない小笠原諸島へ行くには、東京の竹芝桟橋から定期船「おがさわら丸」に乗ること25時間半、じつに丸一日以上の船旅となります。小笠原諸島は日本の他の地域から訪れるには最も時間のかかる日本と言えるかもしれません。しかも「おがさわら丸」は通常6日に1便しか運航していないので、最低でも5泊6日の旅となります。

小笠原諸島は、戦後1968年に日本に返還され、4年後の1972年に「小笠原国立公園」に指定されました。併せて、2011年6月に、その大自然と地域固有の動植物の多種多様さから、ユネスコの厳しい審査を通り、白神山地、屋久島、知床に次いで国内4番目の世界自然遺産として登録されました。素晴らしい自然を有していることが世界に認められたのです。小笠原諸島(Ogasawara Islands)のうち、父島、母島等



△2月～5月に繁殖(交尾・出産)のため小笠原で見ることができるザトウクジラ。写真はブリーチングという行動。(この日は数年に一度というほどクジラが船に近づいてくれたので、大迫力のホエールウォッチングとなった。)



△ポニブルーが眩しい前浜ビーチ。ビジターセンターの目の前に広がる。

を含む小笠原群島は、英語でBonin Islands(ポニアイランズと呼ばれ、その海の青さは敬意を表して「ポニブルー」と称されます。このポニアイランズという呼び名は、江戸時代の呼び名、無人島(むにんとう、むにんしま)に由来しています。小笠原諸島で住民が居住しているのは父島と母島のみで、その多くが無人島です。

## 小笠原の自然

小笠原諸島にある島々は、全てが海底火山の噴火により誕生をしていますが、そのひとつに西之島というのがあります。ニュースで一度は聞いたことがあるでしょうか？ この西之島は今も拡大を続けており、火山を研究する人だけでなく多くの人の注目を集めています。海上に見える部分を西之島と言いますが、海底からの高さ(海底比高)は、約4000mに位置しており、全体を見ることはできませんが、実は富士山(標高3776m)よりも高い火山(海底火山)なのだそうです。ビックリです！

海洋性の亜熱帯気候に属し、大陸から隔絶されていたため、固有種が多く、学術的にも大変貴重な生態系をしています。自生する植物は400種を超え、そのうちの約40%が小笠原諸島の固有種といわれています。その一つであるタコノキは町でも山でも見る事ができ、あまりにも多く目にするので、固有種であるということをお忘れ下さい。他にも、オガサワラオオコウモリやメグロといった希少な哺乳類や鳥類が生息しているのも特徴です。

諸島を囲む海の中も生態系が豊かで、サンゴ礁や熱帯魚等の多彩な海中景観が見事です。なかでも父島の南東に広がる枝サンゴの大群集は、世界的にも珍しいそうです。他にも、ホエールウォッチングのメッカとしても有名で、運が良ければ、野生のイルカとのダイビングが楽しめたり、夏季にはアオウミガメの産卵を観察したりすることもできます。私達のいる富士山にも希少な動物はいますが、海がなく固有種もいないので、なんだか新鮮な気持ちになります。



△好奇心旺盛なミナミハンドウイルカ

## 小笠原の失敗

小笠原諸島を形成する島々のひとつ、<sup>むじま</sup> 賀島列島は現在無人島ですが、以前は家畜として持ち込まれた外来種のノヤギが大繁殖し、森林を食べつくしてしまったことがあります。その後の2003年、懸命の捕獲作業により完全に駆除され、現在ゆつくりと環境は回復へ向かっています。また賀島は1930年代頃まで、国内最大級の海鳥「アホウドリ」の営巣地(多くの巣が形成される場所)がありました。逃げるといふ習性がなく安易に捕まえることができたうえ、羽毛の輸出が莫大な資金源になることから乱獲され、完全に消滅してしまいました。世界中に営巣地が2箇所しかないアホウドリの全滅のリスクに備え、2008年に鳥島から雛を賀島へ輸送し、巣立ちさせたところ、5年の長旅の末、2羽の帰鳥が確認されました。将来、多くのアホウドリが飛び交う営巣地の復活に賀島の未来を思います。

# 小笠原の保全と制度

富士山には私たち富士山レンジャーと環境省のレンジャーがいます。地方自治体のレンジャーはとても珍しいのですが、小笠原諸島にも同じように、環境省と地方自治体のレンジャー「東京都レンジャー」がいます。富士山レンジャーの活動は、年間を通しての環境教育、不法投棄の防止や樹海エリアのパトロール、夏山登山者の啓発活動と、人との関わりが強いのが特徴です。一方、小笠原諸島の都レンジャーは、外来種の駆除や植生保護、調査、啓発活動等、自然との関わりが強いように感じました。

レンジャーのタイプは違いましたが、富士山も小笠原諸島も自然を守るためにたくさん取り組みを行っており、様々な点で似ているように思います。例えばガイド同行を必要とする場所や事前に許可を得なければ入れない場所を設けていること（富士山では限られた一部になりますが）や、カントリコード（自然保護のためのローカルルールを独自に設置していること、道路標識やカーブミラーが景観保護のために茶色に塗られていることは富士山と同じです。一方、島全体で外来種の駆除対策を行っていることは、富士山でも見習ってきたいと感じました。他に富士山と違うと感じたことは、国立公園の特別保護地区に關してです。山梨県では富士山の五合目以上や青木ヶ原樹海が、小笠原諸島では南島等が国立公園の特別保護地区に指定されています。富士山と違うところは、島への入口や歩ける範囲が厳しく決められていること、一日の入島人数を100人までに抑制すること等のルールを設けていることです。簡単に行くことができない小笠原諸島だからこそ、設置できたルールかもしれない。また、特別保護地区の

大事なルールとして、「石ひとつ持ち帰ることができない」があります。これは富士山も小笠原諸島も同じなのですが、「小笠原諸島ではあまり島外への持ち出しの例がない」と現地のガイドさんから聞きました。理由は「きつと環境保全の意識が高い人が多く来るからではないか」とのことですが、いえいえ、富士山にも意識の高い人はたくさんいます。勿論そうなのですが、ルールを知らずに溶岩を持ち出してしまい、後で送り返していただくことも残念ながらあります。もつと多くの人にルールを周知する努力が必要だと感じています。

小笠原諸島では、捕鯨文化の根強かった20年以上前から、ホエールウォッチングとともに、クジラの保護にいち早く取り組んだそうです。また驚いたことに、現地ではゴミが全く見当たりませんでした。時々外洋から漂流物が流れ着くことはありますが、島民やボランティアの方々力で、常に美しい景観が保たれているそうです。島に住む人々の自然に対する強い思いが伝わってきます。富士山でも多くのボランティアの方がゴミ拾い等の活動を行っています。が、ゴミのポイ捨てが無くなるのが現状です。いつか小笠原諸島のように富士山もゴミがなくなれば嬉しいです。

▽父島最高峰・中央山(319m)山頂の写真



上や青木ヶ原樹海が、小笠原諸島では南島等が国立公園の特別保護地区に指定されています。富士山と違うところは、島への入口や歩ける範囲が厳しく決められていること、一日の入島人数を100人までに抑制すること等のルールを設けていることです。簡単に行くことができない小笠原諸島だからこそ、設置できたルールかもしれない。また、特別保護地区の



△外来種子の進入を防ぐ取組み



△アオウミガメの保護、飼育



△小笠原一美しいといわれる南島の扇池

# 小笠原ビジターセンター

小笠原諸島にも、富士山同様にビジターセンターがあります。父島の前浜ビーチの目の前に位置し、センター内では小笠原の貴重な動植物の情報を見ることが出来ます。また、イルカやクジラに関する様々な展示があり、外来種の説明や影響、対策、成果なども知ることが出来ます。他にも小笠原諸島の歴史を展示しており、大変勉強になります。イベントブースも設けてあり、様々な期間限定の展示を見ることが出来ます。私が訪れた時は、東京の大学が行った中国の密航船による珊瑚の被害や遺留物の展示を見ることができました。いつか富士山と絡めた展示を行えれば、と思っています。



△ビジターセンターの外来種に関する展示



△茶色く塗られた標識



△問題の外来種グリーンアノール



△父島東部に多く生息する外来種のノヤギの親子



△父島屈指の展望スポット、旭平展望台から朝日を望む。

**【Information】**  
**■父島・母島へのアクセス**  
 父島/竹芝桟橋から定期船「おがさわ丸」で25時間半  
 母島/父島二見港から「ははじま丸」で2時間  
 ※2016年7月新型おがさわ丸へ移行予定。  
 片道24時間に短縮される。

**【管理・問い合わせ】**  
 ■小笠原環境事務所 TEL04998-2-7174  
 ■小笠原ビジターセンター TEL04998-2-3001  
**【観光案内】**  
 ■小笠原観光協会(B-シップ)  
 TEL04998-2-2587

登山道巡回や安全登山啓発に追われていた、忙しい夏期の登山シーズンは終わりましたが、今年は暖かい日が続いた為、富士山の五合目には閉山後も多くの観光客の姿がありました。例年では閉山後、樹海の巡回や不法投棄の監視で山麓を走り回っている富士山レンジャーですが、近年、外国人観光客の増加に伴い、富士山の溶岩の持ち出しが問題になっていることを受けて、五合目で溶岩持ち出しに関する指導を重点的に行いました。富士山の利用マナーやルールをより多くの人に周知し、皆さんに気持ちよく富士山を楽しんでもらうことができればと思います。



【外国人から溶岩を返却してもらっている様子】

2015.11.28

●不法投棄防止キャンペーン

この日は観光客等に対して、啓発物品（ポケットティッシュ）等を配布し、不法投棄の防止を呼びかけました。山梨県警やNPO法人、市町村等と共に、道の駅富士吉田と道の駅なるさわにて啓発活動を行いました。富士山レンジャーは普段の巡回中に発見した投棄物の写真・パネルを用意し、富士北麓地域のゴミの実態を紹介させてもらいました。このようなキャンペーンを通して、皆さんが富士山の環境について考えるきっかけになればと思います。



2015.12.4

●YBSラジオ取材

YBSのラジオで、私たちの「富士山レンジャー写真展」について取り上げていただきました。この写真展では、富士山の美しい景色以外にも、山麓のゴミ問題や、利用マナーを啓発するような写真も展示させてもらっています。この時紹介していただいたのは、甲府市立図書館で開催していた時のものですが、来年度

も県内の色々な場所で移動展示を行う予定です。その時は、ぜひ皆さん足を運んでみてください。



2016.2.23

●富士山の日街頭キャンペーン

2月23日は「富士山の日」ということはご存知でしたか？ 記念すべきこの日、甲府駅、富士山駅、河口湖駅にて、富士山の恵みに感謝し、その保全を訴える街頭キャンペーンが行われました。富士山レンジャーも各駅に分かれて、クリアファイルや手ぬぐい等を配布しました。「おもてなし やまなし」と書かれたバッヂを手にした方はいますか？ 山梨オリジナルのハローキティがプリントされていますが、実は去年から「富士の国やまなし」の観光ナビゲーターに、キティちゃんが就任しているんですよ！

山梨が世界に誇る富士山。この美しい姿を守っていくために、皆さんご協力をお願いします。



【甲府駅でのキャンペーンの様子】



【富士山駅でのキャンペーンの様子】

# 第13回 富士さんへ謹賀新年 入賞者発表



富士山ボランティアセンターでは、富士山の環境保全に向けた関心や意識を高め、美しい富士山を将来にわたって守り引き継いでいくことを決意した「富士山憲章」の理念を広めるため、毎年富士山にあてた年賀状を募集しています。13回目となる今回は、42都道府県から、911点の力作をお寄せいただきました。

厳正な審査の結果、ご応募いただいた作品から最優秀賞1点、審査員特別賞2点、優秀賞15点を含めた入選200点を決定いたしました。

入選作品は、下記の日程にて展示をいたします。ぜひご覧ください。

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

## 審査員

審査員長	櫻井 孝美 氏	(富士吉田市在住 安井賞受賞 画家)
審査員	中島 博美 氏	(山梨県立美術館 主査・教育主事)
審査員	五十嵐 哲也 氏	(山梨県富士工業技術センター 主任研究員)
審査員	秋本 梨恵 氏	(山梨県富士工業技術センター 研究員)

## 入選作品展示場所および場所

以下の日程で、富士山北麓地域等、計10箇所が入選作品200点を巡回展示します。

※各展示会場の休業日、開催時間に関しては、各会場のホームページを参考にしてください。

平成28年

2月19日(金)~2月28日(日)	山梨県庁防災新館 やまなしプラザ (甲府市)
3月 1日(火)~3月13日(日)	ラザウォーク甲斐双葉 (甲斐市)
3月15日(火)~3月31日(木)	なかとみ和紙の里 (身延町)
4月 2日(土)~4月14日(木)	道の駅なるさわ (鳴沢村)
4月16日(土)~4月27日(水)	河口湖ショッピングセンターBELL (富士河口湖町)
4月29日(金)~5月15日(日)	小池邦夫絵手紙美術館 (忍野村)
5月17日(火)~5月31日(火)	山中湖 花の都公園 (山中湖村)
6月 2日(木)~6月14日(火)	富士山レーダードーム館 (富士吉田市)
6月16日(木)~6月30日(木)	三ツ峠グリーンセンター (西桂町)
7月 2日(土)~7月31日(日)	山梨県立富士ビジターセンター (富士河口湖町)



## ○富士山環境学習支援プログラムのお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、多くの方が富士山とふれ合い、知識を深め、富士山を愛する心や環境保全の意識を育むことを目的とし、富士山学習の支援事業を実施しております。交通費や謝礼等は一切必要ありません。企業における各種研修に是非御活用ください。

**実施日**.. 原則として平日の毎日

(年末年始をのぞく)

**実施時間**..

九時三十分～十六時三十分

の時間帯のうちの三十分間、

**受講料**.. 無料

**対象**.. 地域住民・各種団体・企業等および児童・生徒・学生(教員向け研修もあり)

**定員**.. 六十名まで

※業務の都合により実施できない日があります。

※実施時間・定員に関しては規定外でも応相談します。

**申込**.. 原則として1か月前までに申込みを行ってください。

所定の申込書に必要事項を記入の上、

FAX/郵送/EMAILにて送付してください。

詳細は下記をご覧ください。申込書については下記よりダウンロードできます。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/manabo/manabo001/index.html>

**その他**.. 事前の打ち合わせ・下見等が必要になる場合があります。申込み・打ち合わせは受講される団体の責任者が行ってください。旅行者等による代行は認めません。

**問い合わせ**..

富士山ボランティアセンター

電話 〇五五五・二〇九二・三九

FAX 〇五五五・七二四一・四

○富士山環境保全募金の募集のお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、富士山の環境を保全していくために、皆様からの募金を受け付けております。皆様から寄せられた募金は、富士山環境保全の費用として大切に活用させていただきます。皆様のご理解

とご協力をよろしくお願いいたします。寄付金を入れる募金箱は、次の場所に設置されています。

募金箱設置場所..

富士山ボランティアセンター

河口湖観光案内所

山梨県立富士山科学研究所

道の駅「なるさわ」

道の駅「しもべ」

ふじやまビール

道の駅「ふじよしだ」

山梨県立富士湧水の里水族館

山中湖平野温泉石割の湯

山中湖村役場

山中湖温泉 紅富士の湯

山中湖観光案内所

山中湖 花の都公園

※一万円以上の金額を提供いただいた方(団体)には、感謝状を贈呈させていただきますので、その際には直接富士山ボランティアセンターにご連絡くださるようお願いいたします。

**問い合わせ**..

富士山ボランティアセンター

電話 〇五五五・二〇九二・三九

FAX 〇五五五・七二四一・四

## 富士山憲章(行動規範)

- 一、富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一、富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 一、富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一、富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一、富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境の保全の理念や行動規範を示し、環境保全の実践活動呼びかけ、国民的な規模で、運動の展開を図っていくことを目的としています。

### 発行:富士山ボランティアセンター

(山梨県観光資源課富士山分室)

TEL:0555-20-9229

FAX:0555-72-4114

山梨県富士河口湖町船津剣丸尾6663-1

e-mail: fujisan@eps4.comlimk.ne.jp

本誌のバックナンバーについては、下記よりダウンロードできます。  
<http://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/newsletter/index.html>

富士山環境保全メルマガの配信を希望する方は「富士の国やまなし観光ネット 富士の国やまなしメールマガジン」会員登録画面

(<http://www.yamanashi-kankou.jp/mailmagazine/regist.html>)

より会員登録してください。